

第17回火山噴火予知連絡会議事録

日時：昭和54年10月29日(月) 13時30分～17時30分
場所：気象庁第1会議室
出席者：永田，横山，高木，浅田，下鶴，青木，久保寺，加茂，太田，平野・北村(科技厅)，
城野・中川(国土庁)，岡村(文部省)，小野，春山，茂木，高橋，末広，渡辺，田
(気象庁)，河村，神沼(幹事)
臨時委員：荒牧(震研)，坂本(阿蘇山測候所)
オブザーバー：山本(科技厅)，熊谷(防災センター)，中西，三宅，久本，田中(気
象庁)
庶務：清水，吉留，泉，小宮

〔議事に先立ち，永田会長から次の紹介があった。〕

委員新任：地質調査所地震物性課長小野晃司氏，

臨時委員：東京大学地震研究所教授荒牧重雄氏，阿蘇山測候所長坂本琢磨氏，

委員異動：文部省学術課長植木浩氏から七田基弘氏〕

1. 最近の火山活動

1.1 御岳山

清水(気象庁)：活動の経過

渡辺委員：長野県南西部(木曾郡王滝村，三岳村付近)の群発地震の経過並びに震央分布

荒牧臨時委員：噴火活動の上空からの観察結果

小野委員：御岳火山の発達史

青木委員：御岳山南東部の群発地震震央分布等について

観測体制について：気象庁，名古屋大学，東京大学は地震計を展開し，地質調査所は現地調査を実施する。各パートの連絡・調整は気象庁(本庁)が当る。

岡村委員代理：文部省は旅費を考慮する。

平野委員：科技厅は各省庁から話があれば考える。

渡辺委員：気象庁は機動班を出した。

規制区域と観測者の立入りについて検討

城野委員，下鶴委員，その他

総合検討

荒牧臨時委員：水蒸気爆発かどうかまだはっきりしない。

青木委員：簡単に終わらないと思う。

久保寺委員：噴火記録がないので手のうちがわからない。

加茂委員：火山性地震の判別には山体の大きさを加味する必要がある。

永田会長：目視モニタリングについて

城野委員：エスカレートするのはいつまで続くかが問題である。

御岳山の火山活動に対する統一見解

「御岳山は有史以来はじめての活動を開始し、10月28日早朝より火山灰や火山礫を含んだ黒灰色の噴煙を噴出したが、その後もなお活動は続いている。

活動の中心は地獄谷最頂部付近にあって、この火孔から東南東へほぼ尾根に沿って、10個程度の火孔がみられるが、噴石や火山灰の噴出は主として西端の火口に限られ、その他は白色噴煙である。

この火山についての歴史的な資料が極めて乏しいことと、今回の活動についての観測データがまだ不十分なこともあって、今後の推移についての予測は困難である。しかし、現在の状態や一般的な火山活動の例からみて、この活動は当分続くものと考えられるので、気象庁、名古屋大学、東京大学は現地を観測班を派遣して監視に当たる。これらの観測結果に基づいて、今後更に詳しい火山情報を発表する。

なお、昨年来御岳南東で群発地震の発生がみられるが、今回の活動との関連については、調査を進める。」

1.2 阿蘇山

久保寺委員：震源分布、活動推移、火山性微動エネルギー変化

坂本臨時委員：火山活動推移等について

小野委員：9月6日の爆発について

河村委員：噴火に伴う地磁気変化

太田委員：温泉観測結果

阿蘇山の火山活動に対する統一見解

「昭和54年6月当初から活発化した阿蘇中岳第1火口の火山活動は、6月13日15時10分から赤熱噴石を伴う噴火活動となり、多量の火山灰の噴出と強い鳴動を伴った。

この活動は7月下旬から8月上旬にかけて特に活発で、8月中旬以降の活動はやや弱まり、8月27日から火山性微動の振幅に急激な減少が現れた。台風11号及び12号に伴う大雨により火孔内に流入した多量の噴石及び火山灰を伴う水蒸気爆発が9月6日13時6分に発生した。その後も噴石及び土砂を噴出する活動が継続し、多量の火山灰を噴出している。

阿蘇山測候所では京都大学火山研究所及び同測候所の常時観測資料をもとにして、6月1日以降9月6日までに火山情報を9回発表して注意を促し、地元防災機関は火口周辺1km以内の立入禁止措置をとっていたが、死傷事故が発生した。

この火山活動の推移については、当初から消長を繰り返しながら少なくとも半年程度は続くもの

と判断していたが、現在までの観測結果によっても、今後当分の間消長を繰り返しながら活発な活動を継続するものと思われる。このため火口周辺では噴石などによる被害の発生するおそれがありまた多量の火山灰の噴出が予想されるので、火山活動の推移を監視する。

なお現在の常時観測に加えて、航空機による赤外線熱映像測定などを追加する予定である。」

以降下鶴委員長代行（永田会長記者会見のため）

1.3 有珠山

横山委員：震源分布、上下変動等について

気象庁：地震回数推移

1.4 樽前山

横山委員：震央分布等について

1.5 桜島

加茂委員：地殻変動推移等について

気象庁：活動推移

1.6 雲仙岳

太田委員：雲仙火山、島原付近における局発地震

1.7 南硫黄島周辺の海底火山

茂木委員：最近の火山活動等について

1.8 浅間山

下鶴委員：水平歪等について

1.9 その他

下鶴委員：富士山総合集中観測について

高木委員：吾妻山総合集中観測について

2. Landsat データによる火山活動の研究について（次回で検討）

3. 第16回連絡会議事録（案）は一部字句を訂正し承認された。

4. 連絡会庶務報告

5. 協議事項

1) 次回連絡会開催期日

昭和54年2月8日（金）を予定

記者会見 17:00～17:50 気象庁記者室